

## 老健が目指す「在宅支援のこころ」とは

今朝 NHK でイギリスが女性参政権を勝ち取った様子を描いた「未来を花束にして」という映画についての講演を聴いた女子高生が“自分なんかいない方がいいんだと思っていましたが自分も居たら何かが変わるかも知れないと思えるようになった”とっていました。今日お話することは同じようなお話です。

私が医師に成り立ての頃は高度成長期の始まりで感染症で人を死なせてしまうのは医者  
の恥だ・救急車のたらい回しもあってはならないと言われて教えを受けて来ました。電通  
の鬼の十則も当たり前でした。ところが現在の考え方は 180 度変わっております。電通の  
十則は悪です。

今では肺炎で亡くなるのは当たり前です。現在は死因の第 3 位にまでなつて来ました。  
救急車を断るのも当たり前です。癌も 2 人に 1 人になる時代です。ゆっくり進行する癌は  
寿命に影響ないので現在では長寿癌とも言われます。

このように時代によって社会の変化に伴って、私達も仕事の考え方もやり方も変わって  
来ます。

私達老健が目指す生活リハビリの「在宅支援のこころ」とは在宅復帰だけではありませ  
ん。長い間の核家族化で言葉通りの在宅介護を強制することでかえって不幸を招くことも  
あります。ひどい場合は家庭内殺人等の不幸も出かねません。

ここに介護する側もされる側も共に安心・満足を得る生活支援を考える必要が出て来ま  
す。

今、社会のルールも色々工夫されてきておりますが、「在宅支援のこころ」というその方  
向性は今後もずうーっと変わらないでしょう。

いまなお正解が見つからないわけではありません。今なお、私達介護のプロが試行錯  
誤しながら見つけていかなければなりません。

私達老健はその「在宅支援のこころ」を、老いも若きも障害者も健常者も総てが納得・  
安心・満足してくれるような形で具現化する役割を与えられ、期待されているのです。

従って「在宅支援のこころ」とは、入所も通所もロングステイもショートステイも関係  
なく介護する者の総ての基本に流れる姿勢でなければなりません。

私達の「生活リハという介護」はどちらか一方的なものではなく“介護して頂く”“介護  
させて頂く”という互いの感謝と信頼でもあります。

自分が同じように年を取ったらこういう介護を受けたいなと思えるような介護を工夫し  
ながら業務に当たっていきましょう。

### 老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

### 一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者の QOL・職員の QOL・健全経営の 3 立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

